

## お知らせ

- キノコ観察会；10月16日（土）は吹春先生指導のきのこ観察会です。携行品；弁当、飲み物、雨具、お椀、あればカメラ。9時30分第二駐車場集合。小雨決行。ご家族や友人の同伴を歓迎します。
- 安全研修（チェンソー等）；NPOちば里山センター主催の安全研修が下記の通り開催されます。11月23日豊英島開催分受講希望の会員は、上記事務局アドレスに10月末までに申込下さい。その他の受講希望者はちば里山センターTEL0438-62-8895、メール [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) に申込下さい。

開催日	開催地	協力団体・開催場所	講師
10月14日（木）	市原市	おとすれ山の会	木村講師
11月23日（火）	君津市	ちば千年の森をつくる会（豊英島）	木村講師
12月5日（日）	成田市	北総里山倶楽部	調整中

- ・持ち物・服装等 軍手・動きやすく、汚れても良い服装。あればヘルメットゴーグル、日頃お使いの機材
- ・参加費 ￥1000（資料代・保険代等）

- 「豊英島の動物」写真額を県民の森に寄贈；無人カメラで撮影した動物の写真を清和県民の森に寄贈しました。20日の活動日に坂本代表が事務所を訪れて手渡したもので、テン、タヌキ、シカ、アライグマ、ハクビシンの5種類です。早速、工作室の壁に掲示されましたので、機会がありましたらご覧ください。（坂本文雄記）

## 活動の記録

- 9月20日（月、休日）晴 参加は新井（孝）安藤、伊藤、岩崎、鶴沢、占部（昭）甲斐、栗山、坂本（彌）坂本（文）福田、松本、真鍋、村野の会員14名にヒメコマツグループの遠藤さん、更に昨年キノコ観察会に参加した中田夫妻と5人の子供たちを迎え総勢22名。ニホンジカ調査、植物・食害調査、ヒメコマツ調査、野鳥調査など行いました。生きもの大好きの子供たちは巨木林やホテイ岬、岬に出現した干潟を探検し、多くの生きものたちやキノコに出会いました。



- ヒメコマツ調査；「房総のヒメコマツ研究グループ」の遠藤さんが、4月植栽のヒメコマツの生存状況を確認調査し、坂本代表と伊藤が同行した。結果は、平坦部（31本植栽）では約5割の枯損率、斜面部（7本植栽）は全てが枯れ100%の枯損率であった。なお、当初想定したシカ食害は現時点では影響が見られず、ツリーシェルターを設置しなかった3個体はいずれも良好な成育を示している。研究グループでは、この経緯を踏まえて来年度以降更なる対応を検討することであり、当会としてもしっかり協力していきたい。（伊藤記）
- ニホンジカ調査；10時10分から40分まで、7班に分かれて7コースを隈なく探しましたが、1頭も見当らず新しい食痕や糞もありませんでした。釣人もこの日は泳いで逃げるシカは見えていないそうです。しかし、ホテイ岬周辺の湿地にはシカと思われる偶蹄類の足跡が数か所で確認されています。それほど古い足跡とは思えないので、最近も何頭か上陸しているのは間違いありません。（坂本文雄記）
- 植物・食害調査；坂本（文）班は禁断の岬ヒカゲツツジ崖の近くにヤナギ科シバヤナギを数株確認しました。これで豊英島の植物累計出現種は323種になりました。栗山班は食害調査を行いました。調査データは今年度の集計に累積されます。（真鍋記）植物調査は植生保護柵外で行っていますが、柵外の草本類が柵内に比べて非常に少なく感じています。これは草本類が食害にあっているものと考えますが如何でしょう。（栗山記）

○鳥類調査；v印と数字は目視羽数 無印は声での確認です。

カワウv1 トビv1 アオアシシギv1 キジバト カワセミv2 キセキレイv1 ハクセキレイv3  
セグロセキレイv1 ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カケス ハシボソガラス  
ハシブトガラス 以上16種と番外コブハクチョウv1（飼い鳥）

モズは秋になるとオスもメスも冬越しの為に縄張りをつくり、縄張りへの侵入を防ぐ甲高い声は高鳴きと言われ、秋の風物詩です。豊英島の対岸から聞こえて来ました。

アオアシシギはユーラシアの北部で繁殖し、東南アジアやオーストラリアなどで越冬します。日本は繁殖地と越冬地の間に位置しているため、往復時の春と秋に経由して行きます。普通は内湾の干潟や河口、沼や湿田で見られるのですが、豊英湖のような山間のダム湖に立ち寄るのは非常に珍しい事だと思います。減水によりホテイ岬の一角がたまたま干潟に似た環境になったので立ち寄ったのでしょう。この鳥は群れからはぐれた若い鳥らしく、まだ警戒心が薄くてカメラの前まで近付いて来ました。（坂本文雄記）



アオアシシギの水浴び



アオアシシギの餌取り



アオアシシギの休息

### 水陸両用植物？

減水により出現したホテイ岬周辺の陸地に色々な植物が芽生えていて、その中にエビモの一種と思われるものがありました。この沈水性の水草は浅い水底に根をはり、細い茎が水中を漂うように伸び柔らかい葉を付けています。陸地化して土地が乾燥すれば当然枯死すると思っていましたが、地下部は生きていて陸上植物の様な葉を出して次の増水まで急場をしのいでいるようです。植物のしぶとい生き残り戦略を垣間見た気がします。



（根本にある枯れ草が水中で繁茂した茎と葉、緑の新芽が陸上葉だと思えます）（坂本文雄記）

### 島の生きもの探し 千葉市立打瀬小学校3年 中田夏実（ナツミ）

9月20日は、清和県民の森に行きました。そこでダムでできた湖に囲まれた豊英島に行き、シカなど動物の足跡を見ました。初めてみたのでびっくりしました。その後ダムでできた島を歩きました。去年キノコ観察会をしたところですが、去年トモキが見つけたクロヤツシロランを一生懸命探したのですが、見つからなくてくやしかったです。来月キノコ観察会の際は絶対見つけたいと思いました。咲き終わったクロムヨウランは沢山見つけられました。

中田さん親子は巨木林からホテイ岬や干潟を歩き、生きもの探し。小1の智貴君はウスタビガ、ナナフシやコガネの仲間など多くの昆虫やカナヘビ、アメリカイロガワリなどのキノコも見つけました。干潟では水草や藻やドブガイなど見つけましたが、水陸両用でない淡水性の二枚貝のドブガイは死んでいました。「去年のキノコ採りのときホテイチクネット内の竹の根元にクロヤツシロランがあった」という智貴君の記憶を頼りに探しまわりましたが、見つからなくて残念でした。（真鍋記）



湖水面低下で出来た干潟で生きもの探し

